

平成23年度 和歌山県文化賞

なか つじ のり お 中 辻 憲 夫

住 所：京都府京都市

出 身 地：和歌山県橋本市

生 年：昭和25年

◎業績及び経歴

昭和25年橋本市に生まれる。昭和47年京都大学理学部卒業、昭和52年に同大学院理学研究科博士課程を修了。スウェーデン・ウメオ大学、アメリカ・マサチューセッツ工科大学やジョージワシントン大学、イギリス・ロンドン大学において研究。帰国後、明治乳業ヘルスサイエンス研究所主任研究員から研究室長を経て、平成3年から国立遺伝学研究所教授として哺乳類発生学に関する研究活動を行う。その後、京都大学再生医科学研究所教授から所長となり、平成19年より同物質－細胞統合システム拠点(iCeMS)拠点長に就任している。また平成24年には、英国王立化学会とiCeMSが新たに共同出版する英科学誌「バイオマテリアルズ・サイエンス」の編集長となることが決定した。

専門は、幹細胞生物学、発生生物学であり、「ヒトES細胞株」(胚性幹細胞株)の樹立研究計画を策定し、政府指針による厳格なインフォームド・コンセント等の手続きにより提供されたヒト受精卵をもとに、平成15年5月に国内で初めてその樹立に成功、分配体制を確立した。

ヒトES細胞株の樹立と分配体制の確立は、将来の画期的な治療法の研究開発を推進するとともに、新薬開発の安全性や薬効試験の信頼性を高めるなど、広く医学界や産業界において多大な貢献が期待されている。また、ES細胞で培った技術・知識はiPS細胞の研究にとっても重要であり、今後の発展に大きく貢献する。

さらに氏は、文部科学省による世界トップレベル研究拠点の一つであるiCeMS初代拠点長とし

て、多分野の精鋭を集め、細胞科学と物質科学を統合した新たな学際領域の創出を推進し、真に国際的な研究組織を構築する等、多彩な経歴をいかしてiCeMSを牽引しつつ、現在も、ES/iPS細胞を用いた疾患モデル作成や新薬開発に応用する研究などを続けており、わが国の幹細胞研究や再生医学の発展における業績は計り知れない。

■現在

京都大学 物質－細胞統合システム拠点
(iCeMS) 拠点長・教授
再生医科学研究所教授 (幹細胞医学
研究センター長)
英科学誌「バイオマテリアルズ・サイエンス」
編集長

■主な表彰歴等

平成16年 京都新聞大賞文化学術賞
日経BP技術賞